



盛り上がった「ピースあいち年末祭」 2010年12月12日(日)

今年で2回目となった「ピースあいち年末祭」は、
いま珍しくなった「餅つき」が加わり、盛り上がりました!

午前10時30分、犬山市出身のシンガーソングライター明日香さんの登場で、コンサート会場は満席の盛況のもと幕を開けました。

恒例のバザーは、開始を待ちかねた来客で早々から大賑わいをみせ、近年の節約志向の世相は開催中の所蔵品展が伝える「操られた戦時の世相」と奇

妙な符合を感じさせました。

心配された天候も上々で、屋外での餅つきは^{かまど}竈と薪による米蒸しから、石臼と杵による本格的なつきあげまで、見ごたえのあるイベントとなりました。つきたての餅は、餡やきな粉をまぶして即売し、お昼どきとも重なって子ども連れの来館者に好評でした。

「ピースあいち年末祭」は、毎年この時期に開催する「所蔵品展」を多くの人に見てもらうため、日曜日を特別開館日とし、入館無料で恒例化していきましようとしたイベントで、特に地元名東区の中日新聞専売店のご協力で6千余戸に折り込みチラシを配布。当日の入館者は約150名にのぼりました。

今回、餅つき用具の運搬・設置などについて、外部からのご協力もいただきました。バザー商品の提供など、準備段階から終了後の整理整頓までお骨折りいただいた「ピースあいち」ボランティアの皆さまのおかげで成功をおさめたことを報告し、深く感謝いたします。



オープニングコンサート



賑わったバザー



初登場!お餅つき

名古屋空襲展(2月22日～3月19日)

「名古屋空襲犠牲者追悼の夕べ」(3月19日)

名古屋への大規模な空襲が始まり、多くの犠牲者を出した3月12日、3月19日。なぜ名古屋への空襲が激しかったのか、その犠牲は…。3月19日には、8日前に起こった東日本大震災で突如災難に遭われた方たちに対しても哀悼の意を表わし、犠牲者追悼の式を営みました。玄関の平和地蔵の前、ボランティアの手づくりの平和を願うメッセージがろうそくの灯に浮かび上がっていました。



'10所蔵品展 雑誌などにみる戦時の世相

「ピースあいち」には市民から寄せられた戦時の遺品がおおよそ2,600点ほどある。このうち約350点を常設展示に出している。当館では寄贈者の意向に応えるため、随時所蔵品展を企画・開催している。昨年12月8日から本年2月19日まで開催したテーマは、「雑誌などにみる戦時の世相」である。

- 横山隆一のマンガ「フクちゃん」で有名な横山隆一の「決戦兄弟」というマンガ。今日は休電日ということで工場はお休み。そこで、野山にピクニック。魚を釣って夕食のおかずにしよしたり、食べられる野草のオオバコを摘んだりしている。時局は深刻なのに、どこか明るい。
- 週刊誌の表紙—『週刊朝日』は、カラー刷りの表紙が時代の推移、戦局の厳しさとともにモノクロになる。『サンデー毎日』のカタカナ語は敵性語のためダメということで、『週刊毎日』となる。



- 『写真週報』の表紙—グラフィックな写真による週刊誌を内閣情報局が発行。その45点を縮小して画面いっぱいに展示。モデルは軍人姿があり、爆撃機があり、兵器製造の工場の風景ありで、もう戦時色一色!



- 婦人雑誌に見る世相—『處女』の昭和14(1939)年頃の表紙絵は竹久夢風の感傷的な美少女だが、翌年になると少女の背景に出征兵士の姿と日の丸の旗が描かれている。『主婦の友』の昭和15年新年号は470頁もあるが、敗戦の同20年4月号は52頁、同6月号になると34頁に落ち、それまでのカラーもモノクロ印刷になっている。
- アメリカの代表的な週刊誌『Life』の英文誌—昭和11年創刊の雑誌。昭和12年1月11日号には、「日本兵士」の写真が幾つか載っている。その表紙も日本の兵士で、文中には「爆弾三勇士」の彫像の写真もある。
- 戦時下の衣生活—『婦人倶楽部』とか『家の光』といった婦人雑誌、家庭雑誌には、防空頭巾や戦時下

の婦人服、子供服の作り方の幾つかが載っている。「必勝防空寝巻」とか「夏の決戦簡単服」「決戦衣服読本」といったネーミングは、まさに戦時下を示している。

- 婦人雑誌の広告—『婦人倶楽部』『日本婦人』といった婦人雑誌の裏表紙には、「戦時国債」を買うように勧める広告が続く。いずれも全国誌なのに、どうしたことか、東海銀行の広告が多い。この他、『写真週報』の裏表紙では、貯蓄の奨励、「貯蓄戦でも米英打倒」「戦果にこたへよ、感謝貯蓄」といったキャッチフレーズ。



- 「いろはカルタ」の今昔—『少国民文化』(昭和18年10月号)に載った「愛国いろはカルタ」と「ピースあいち」が公募した「平和を願ういろはカルタ」を併置して展示。その内容の差は歴然。
- 当時の新聞の記事—米不足が深刻になって、「お米依存は昔のこと」とし、「寸土に余すな 自給増産」を呼びかけ、豆やサツマイモを「必勝食」と名付けた。学徒も動員し、空地の利用も呼び掛け、食料増産の記事の幾つかを展示した。

「描き残したいヒロシマ原爆～牧野俊介」展 (10月5日～11月20日)

原爆投下翌日の広島へ救援活動に参加し、原爆投下直後の最も生々しい惨害を目の当たりにした牧野氏が、自分の体験を後世に残しておきたいと、80歳を迎えてから描いた作品。24枚の絵からは、惨禍を受けた街、街、街、そこで苦しみ呻く人たちの声が聞こえてくる…。



児童・生徒に深い感銘を与えた —2010年度語り手の会の活動—

平和学習支援事業

2009年度から始まった愛知県・名古屋市が設置している「戦争に関する資料館調査会」からの委託事業である「平和学習支援事業」は2年目を迎え、2010年度は7月7日の刈谷市立富士松北小学校を皮切りに2011年2月14日の名古屋市立荒子小学校まで12校において実施しました。

内訳は小学校10校、中学校2校、地域別では名古屋市を除く愛知県内で8校、名古屋市内で4校でした。対象とした児童・生徒は全体で773名、派遣した語り手は延14名。前年度に続いて派遣した語り手は延7名、初めて派遣した語り手は7名で、できる限り多くの語り手に参加していただけるように配慮しました。なお、初めての語り手については映像で記録しました。

夏の戦争体験を語るシリーズ

ピースあいちでは、毎年夏に「戦争体験を語る集い」を開催しています。2010年も8月3日から14日にかけて「語り手の会」の登録メンバー10名が出演しました。聴衆は来館した不特定の老若男女であり、参加者は延284名に上りました。

その他の語り活動

上記二つの活動の他、愛知県下の小中学校や各種団体からの要請に基づいて「語り手の会」のメンバーを派遣したり、「ピースあいち」を訪れた学校・団体に対して同メンバーが体験を話す活動は30回、2300人を超える人々が聞いてくれました。出演した語り手は、延36名に上りました。



小学校で語る語り手



語り手の話を熱心に聞く子どもたち

活動の効果

全体を通じて約3400名の人々に戦争体験を伝えることができました。アジア・太平洋戦争が終わってから既に65年余が経過し、戦争を知らない世代が圧倒的に多い中で、体験者の生々しい話は、特に児童・生徒たちに深い感銘を与えたと確信しています。(T)

被爆の話に中学生も涙！

2010年4月から2011年3月までの1年間に小、中、高校で17校が来館しました。合わせて約600人です。

2011年2月には名古屋市立神丘中学校の生徒27人が訪れました。生徒たちは長崎被爆体験者の仲直敏さんの話に熱心に耳を傾け、中にはうっすら涙する子もいました。語り手の仲さんも話を進めるにつれ涙をこらえながら、一生懸命に自分の体験を話されました。

体験談を聞いた後の生徒たちは2階の展示室の写真展示「命の壁」の中の一枚である「焼き場の



少年」(長崎の原爆で亡くなった弟の遺体を焼いてもらうのを待っている男の子の写真)にも心動かされたようです。引率の先生の言葉が印象的でした。『名古屋でこのような被爆体

験を知ることができるとは思っていませんでした』。

東日本大震災で原発事故の影響が長期化する昨今、唯一の被爆国である日本人びとは「核」についてもう一度考え直す時であるようです。

「ピースあいち」へ、小中学生の思い

「ピースあいち」が開館してから、多くの小中高生が社会見学・遠足等々で参観にやってきます。戦争体験談を聞いたり、館内のガイドを受けたりします。学校に帰ってから書いたお礼の手紙や、感想文が送られてきます。

今号では小・中学生が「ピースあいち」でどのように感じ、考えたかをそれらをもとに紹介します。(明らかな誤字・脱字、テニオハの間違ひは訂正してあります。また、長文は一部カットしてあります。題は編集子がつけました。)



象列車の劇を成功させたい (小6 女子)

私たちの小学校では、6年生が代々、象列車の劇を演じることになっています。そして、今年は私たちの番なのですが、本番を約1週間後に控えた今日、とてもわかりやすい資料のためか、午後の練習がとてもうまくいきました。この見学を生かして、象列車の劇を成功させたいと思います。

象列車のことがわかった (小6 男子)

今、象列車のげきをやっているのを話をきいたら本当のことなんだと思いました。国のとちがほしいがために人をぎせいにするなんて、人間って自分かってだなと思いました。

眼をそらさないでください (小6 女子)

わたしの心に強く残ったことは2階の大きなパネルに書いてある「めをそらさないでください、これが戦争です」という言葉でした。その言葉が書いてあるパネルには、戦争や原爆の犠牲者たちの写真がのせられていました。私はこの言葉がとても心にひびきました。その通りで、戦争といくら関係がないといっても、戦争で苦しんでいる同じ年の子が世界に数えきれないほどいます。この子のことを思うと見はなすことができません。わたしたちの力が直接伝わるわけではないけれど、戦争がなくなるよう、わたしたちも考えていきたいです。

教科書にないことをした (小6 男子)

教科書ではわからない人の感情などは、話をし

てもらおうとよくわかるし、教科書にかかれていないことも話してもらえたので、とてもよくわかりました。

ランドセルや洗面器も紙だったことにとてもおどろかされました。象などのしいう員の気持ちもよくわかりました。そして、戦争のこわさをあらためてしりました。これからもいろんな人に戦争のことを話してください。

戦時の生活の大変さがよくわかった(中1 女子)

15年もの間の戦争や愛知県空襲など、戦争に関する物がたくさんおいてあり、すばらしいなと思いました。特にその中でも、復元した昭和の頃の部屋が印象に残りました。戦争の頃の生活の大変さがよく伝わりました。その他には、紙製のランドセルや洗面器、千人針など、その当時の物があって、戦争は怖いものだと思います。

私はこれから、戦争のことについてもっと調べて後の人たちにも語りついでいきたいと思ひます。

戦争は精神的にも人を苦しめた (中1 女子)

私は、少し前に「ラスト・ゲーム～さいごの早慶戦」という映画を見に行つて、「学徒兵」という恐ろしい制度があつたということを知りました。きっと、その時の驚きと悔しい気持ちと「ピースあいち」が重なつたのでしょう。校外学習では、初めから「ピースあいち」に絶対いこうと考えていました。

私たちを案内して下さつた、斎藤孝さんから、

とてもたくさんのお話を聞いて、初めて理解できたことがあります。それは、戦争は精神的にも人を苦しめたということです。(身体的にももちろんそうですが。) 当時は「警戒警報」や「空襲警報」が夜中鳴り続けることがよくあったそうです。齋藤さんは、それが鳴っている間、ずっと怖くて、恐ろしくて、おびえていたとおっしゃっていました。ここまで人々を苦しめてきた「戦争」は次の世代に伝えていかなければいけない、とても大切なことだと、私に思い知らせて下さり、本当にありがとうございました。

戦争をしても何一ついいことはない(中2 男子)

研修では戦争体験者の話を聞かせてもらい、戦争をしても何一ついいことはないということまでいろいろ教えてくださいました。

特に「たらぬはクフウがたらぬ」という、たらぬ物は知えを出せば何とかなるという言葉、「工夫」の「工」をぬかして「夫」だけを残して、「たらぬは夫がたらぬ」としたというお話からは、夫が死んでかえってこないから戦争はいやだという悲しい様子がわかります。

戦争がないことが平和なのではない(中2 女子)

先日は戦争体験のお話を聞き、たくさん資料を見るという貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。今まで事前学習をしてきましたが、実際にお話を聞き、資料を見て、家族やまわりの人などたくさんの人を傷つけ苦しめる戦争の悲惨さを改めて感じました。

心に残っているのは、お話の中で「戦争がないことが平和なのではない」ということです。私も以前、全国の戦争体験のお話を集めて、小・中・高生10人ほどで、朗読をしていました。それで名古屋を訪れたときも、同じような話を体験者の方に聞いたのを覚えています。私が読んだのは、親、兄弟を戦争で亡くし、それでもそれを信じられないでいたという、当時11歳の女性のお話でした。その方のお話を聞いたりするうちに、戦争のひさんさを知り、戦争はいやだという思いが強くなりました。

私はまだまだ何もわかってはいませんが、これからもっとくわしく知り、もっとたくさんの人たちに体験者の方々の思いを伝えていきたいと思っています。今回の学習で学んだことを、これからも大切にしていきたいと思っています

資料館探訪 3

陸上自衛隊豊川駐屯地内の三河資料館

豊川工廠空襲の実態を知りたい思いで、陸上自衛隊豊川駐屯地内にある「三河資料館」を訪れた。

自衛隊の中に入るのは初めてであったので、緊張したが、厳しいチェックもなく、簡単に入れた。豊川工廠の被害を受けなかった数少ない建物(改築されていて、古さは感じない)に資料館はある。明治の村田銃から、現在自衛隊で使用されている機関銃まで、軍隊で使用された日本刀やサーベル、自衛隊の制服から階級を表す徽章・肩章など旧帝国軍隊から自衛隊までの武器・階級の推移がわかるように展示されている。豊川工廠の空襲の資料は豊川工廠の全体の模型があるだけであった。平和資料館ではなく、戦争資料館である。

資料館の前には自衛隊が保有する戦車やヘリコプターが陳列されており、武器の持つ迫力に恐怖感を持った。自衛隊というものの一端を知れて、それなりに面白い。

豊川工廠の空襲関係の資料は豊川市立の桜ヶ丘ミュージアムに展示されている。ミュージアムの前の公園に「豊川海軍工廠戦没者供養塔」がある。塔中には戦死者名簿と工廠の土が納められ、台座周囲には各工場の石定盤に戦死者名が刻まれた石版が組み込まれている。(N)



展示・イベント報告 「ピースあいち」で開かれたさまざまなイベントから

「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」の活動報告 (11月21日)

世界の現状を学ぼうと、「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」の小野万里子さんをお招きし、お話を伺いました。またイラクから医療研修のために来日されている医師のハディさん、アブドルハレブさん、通訳の大岩さん（南山大学4年生）も参加されました。

「パレスチナ・ガザの子どもたちの絵画展」 (3月22日から4月23日)

イスラエルによる厳しい封鎖から4年を迎えるガザで暮らす子どもたちが描いた絵と、フォトジャーナリスト古居みずえさんの写真展示。占領・破壊・停電・水不足・生活の不自由さ・家族を失った悲しみ、そんな中でも子どもたちの絵は、私の夢は！僕の希望は！と未来を見つめています。東日本大震災のたいへんな状況の中で開催

された絵画展。東北の被災地とガザが重なります。復興への希望を……。3月26日には北林岳彦さん(パレスチナ子どものキャンペーン代表理事)による最新ガザ報告会が行われました。

辺野古・沖縄・海兵隊をテーマにした映画と最新映像レポート (2月5日)

2004年から沖縄・辺野古で撮影を続けながら自作品を持って全国上映キャラバンを敢行中のドキュメンタリー映画監督・藤本幸久さんをお招きして開催しました。『また、また、辺野古になるまで』と沖縄からイラクやアフガニスタンへ送られる米軍海兵隊ブートキャンプ（新兵訓練所）の12週間の凄まじい訓練を描いた『ONE SHOT ONE KILL<一撃必殺>』を上映。その後、監督の熱い思いを語っていただきました。この企画は、愛高教名南北合同研究会と名東9条の会とで実行委員会をつくって取り組みました。



●「第26回 戦災・空襲記録づくり 東海交流会」に参加して●

2010年12月19日、恒例の『東海交流会』が「ピースあいち」で開かれました。『東海交流会』とは、愛知・岐阜・三重にわたって戦災や空襲を調査記録している市民団体が年1回集い、それぞれの取り組みを交流するために始めたもので、今回で26回を迎えています。今回は神奈川・静岡を含む、20団体40人が集いました。

メインレポート1. 瀬戸からは、愛知航空機の地下工場跡を保存して市民の平和の散歩道にしていく取り組み、2. 豊橋からは、NHKや新聞各紙に取り上げられた豊橋空襲の体験画の募集から展示会までの取り組みと体験画の持つ迫力と継承の可能性について、3. 岐阜からは、空襲直後の写真発見のニュースと岐阜市平和資料室の展示を8年ぶりにリニューアルしたこ

と、映像機器を活用した平和講座の出前などユニークな取り組みが報告されました。

各地からの報告では、岡崎・名古屋学童疎開・豊田・熱田・半田・三重・ピースあいちから「戦争体験の継承と保存」の取り組みが、亀山・鈴鹿・半田・小田原・戦争遺跡研究会から「調査と記録」の取り組みが報告されました。また、『全国空襲被害者連絡協議会』が昨年結成され国家補償法制定に向けて活動が始まっていることも紹介され、熱気にあふれた交流会になりました。 (K)



活発になった国際交流

2010年は海外からの訪問者が3組あり、国際交流が活発に行われました。

●元アメリカ兵捕虜 スワボさん

9月14日(火)、外務省の招へいで元アメリカ兵捕虜アール・マーチン・スワボさん(89歳)が妻のメアリーさんと「ピースあいち」を訪れた。

スワボさんはアジア・太平洋戦争中にフィリピンで日本軍捕虜となり輸送船で日本に運ばれ、過酷な収容所生活と軍需工場での強制労働を強いられた。現在生き

残っている6人の元捕虜の方たちと共に日本を訪問し、自分たちの体験を日本人に知ってもらうために記憶に残る場所を巡っていた。

展示を見学後、館長ら「ピースあいち」の関係者と懇談し、最後に「捕虜の記憶は忘れられないが、区切りをつける機会になった」と言い残された。

●カンボジアから チュム・メイさん

30数年前のカンボジア、ポル・ポト時代に起きた大量虐殺では170万人もが拷問や飢えで亡くなったといわれる。その時代を生き延びたチュム・メイさん(79歳)が11月2日(火)池住義憲さん(立教大学大学院教授)と通訳のワンター・ジムさんと共に来館し、その過酷な体験を語った。

「1978年10月、修理工をしていたとき突然逮捕され強制収容所に連行された。79年に解放されるまでに、家族は銃で殺されてしまった。」

貴重な歴史の語り部のチュム・メイさん。こうした虐殺を2度と繰り返さなでほしい、と深い眼差しが印象的だった。

●日本・ルワンダ平和活動交流会

12月21日(火)、「ピースあいち」の英語ガイドブックを制作した「ピースあいち」を支援する学生グループ「PATH」が、日本ルワンダ学生会議(JRYC)と共催し、ルワンダ人大学生5名を「ピースあいち」に迎え交流会を行った。

学生たちはボランティアの英語ガイドで展示を見学したのち、「ピースあいち」側の参加者と、両国の戦争や紛争に関する歴史・背景を、学生の英語通訳で熱心

にやり取りした。

ルワンダで1994年に起こったジェノサイド(民族大虐殺)。当時8歳だったナガンダ・アルフレッドさんは、その時家族全員を殺され死体の中を逃げ続けたという壮絶な経験を語り、「世界のどこで起こるかもしれないこと。よく知ってほしい。」と訴えた。

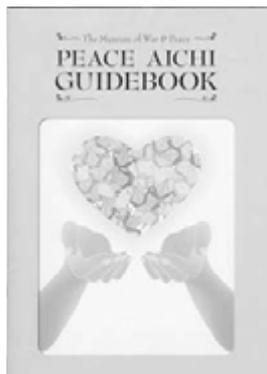
学生たちの真摯で主体的な活動から、教えられ刺激されることの多い交流会だった。



英語版のパンフレットができた

「ピースあいち」にも外国人が訪れるようになりました。このたび名古屋市立大学平田雅己教授の発案により英語版のパンフレットが作られました。名市大をはじめ4大学の「PATH」というグループに集う学生らのボランティアによるものです。

A4判22ページ。「ピースあいち」の建設経過から展示の概要が、写真や図を配してきめ細やかな編集となっています。



映画上映会(映像による学習会)

「ピースあいち」では、毎月第2土曜日の午後4時30分から映画上映会(映像による学習会)を開いています。(参加費無料)

- 1月8日 「誓いの休暇」(1959年)
- 2月12日 「さよなら子どもたち」(1987年)
- 3月12日 「赤い月」(2003年)
- 4月9日 「笑いの大学」(2004年)

■今後の予定

- 5月14日 「映画 日本国憲法」(2005年)



夏休み特別展

「戦時下の子どもの暮らし」

—7月12日～8月31日—

昭和6(1931)年の満州事変から始まった戦争は足かけ15年にわたった。多くの若者が戦場に送られた。国民は過酷な生活を強いられ、数多くの人々の命が失われた。子どもたちも軍国教育を受け、戦争遂行に協力させられた。

戦時の教科書、雑誌をはじめ、玩具、子供服などの実物資料を並べ、当時の遊びや替え歌、学童疎開、学徒動員、戦後の子どもたちの生態など、いろんな切り口で紹介する。



「ピースあいち」は「博物館相当施設」です。

「ピースあいち」は名古屋市で7番目に愛知県教育委員会から指定された「博物館相当施設」。(博物館法上の博物館である「登録博物館」に準じた法制上の扱いを受けるといふもの。) 平和を愛する多くの市民に開かれた場として、これからも活動していきます。

ドニチエコきっぷの提示で入館料を割り引き

名古屋市交通局の「ドニチエコきっぷ」または「一日乗車券」(当日利用)を提示していただくと、入館料大人300円→250円、小中高生100円→80円に割り引きます。詳しくは名古屋市交通局HPや地下鉄各駅で配布のガイドブック「なごや得ナビ」をご覧ください。

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ピースあいちの運営を支えてください。

当館の維持運営は、入館料、会員会費および寄付によって支えられています。会員になって「ピースあいち」を支えていただくようお願いいたします。

入館者は開館以来4年で2万8400人、会員数は開館当初の295名から790名となりました(3月末)。

正会員(年会費6,000円)には年間無料で入館できる無料バスの特典があり、賛助会員(年会費3,000円)には無料入場券を一枚お渡ししております。また団体・法人には「ピースあいち支援団体」(一口1万円)になっていただくことをお願いしております。

また、寄付も受け付けています。入会や寄付のお申し込みは郵便局の振替用紙、または「ピースあいち」で直接お申し込みください。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階には「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示、3階には「戦争と動物たち」の展示があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーがあります。1階のみの利用は入館料は必要ありません。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

「ピースあいち」への交通のご案内



●編集後記●

東日本大震災。多くの人命を奪い、民家も漁船も根こそぎ奪い去った大災害。加えて原子力発電所の津波事故。その惨状はまことに痛ましい。現地は悲しみのなかにある。

そうしたなかで釜石市の小中学生は日頃の避難訓練の通り高台に逃げ、小学生350人、中学生212人全員が無事だった。50年前のチリ津波による被害の教訓に学んだものだ。

私たちも防災意識を高め、緊急避難用の非常持出袋と三日分の水・食料を用意して、この地方を襲うであろう巨大地震に備えたい。(S)